

Graph GUNMA **ぐんま**

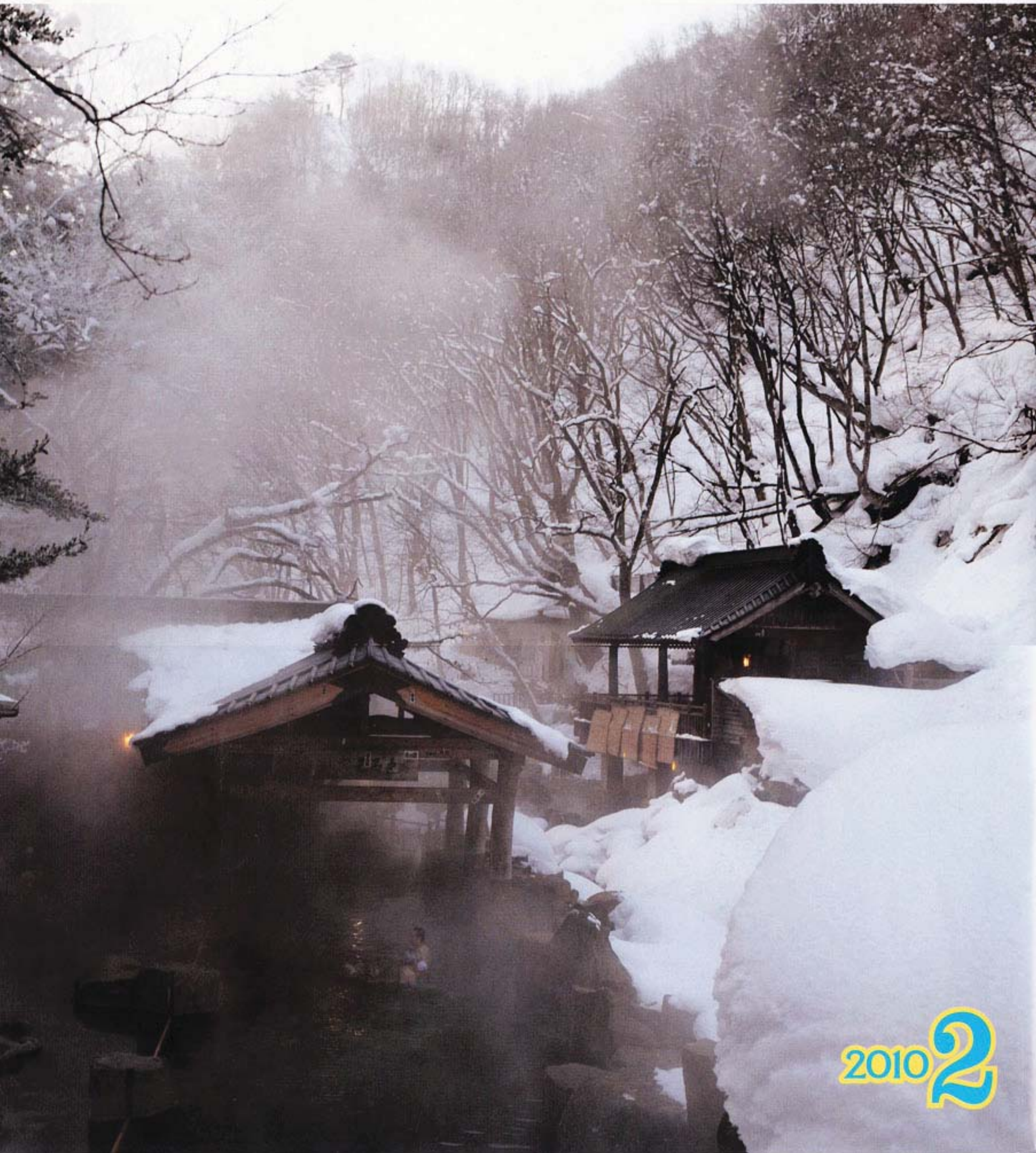
特集 ぐんまの冬の温泉を楽しもう

かお

SUBARU陸上部監督 小指 徹さん

県政の話題

ハツ場ダム 大臣と住民の意見交換会



2010 **2**

▼「暖話室」の組み立て工程。時にはスタッフに交じって宮下社長（左から2人目）も作業に加わる



遠赤外線ぬくで自然の温ぬくもり

●藤岡市
アールシーエス



▲組み立てが終わった製品の通電チェック

日だまりにいる
ような心地よさ

寒さがピークの季節、日だまりにいるような、心地よい暖かきにつつまれるのは至福のひととき。近年、安全性の高さと快適さから人気が高まっている暖房器具が、遠赤外線パネルヒーターだ。

このヒーターを自社で開発・製造・販売しているアールシーエス（宮下佑雄社長、藤岡市森新田）は今年、創立31周年を迎える。宮下社長は、大手電気メーカーで設計などを手掛けた後、独立。11年前、当時としてはまだ珍しかった遠赤外線パネルを使った暖房機に着目した。

ぐんま発 明日を拓く



◀フラット型「夢暖望」と丸型「暖話室」の完成品



▶心臓部となる発熱体部分の取り付け



「昨今の健康志向の高まりや、住宅の高断熱化、暖冬などの背景を考えると、遠赤外線による暖房の可能性の高さを感じました」と話す宮下社長。それまで培った技術を使って試作機を作り、翌年にはヒット作となるフラット型の遠赤外線輻射式パネルヒーター「夢暖望」を完成させた。

同ヒーターの原理は、発熱体となる厚さ50μmのステンレス系の箔から放出される熱を、セラミックを通して遠赤外線に転化させるといふもの。熱膨張率が異なる素材を組み合わせるため、不安定になりがちな動作を克服する技術として、押さえ板の形状を工夫するなど、さまざまなノウハウを投入した。

その後、熱効率の一層の向上を求めて2002年には、新機種となる丸型の360度遠赤外線ヒーター「暖話室」を発売。部屋の中央に置いて使える便利さや、美しい曲線のデザインが高い評価を受けた。さらに4年前には発熱体をより効率の高いホーロー素材とすることで、製品の完成度を高めている。

同社の遠赤外線ヒーターは、フラット型（3機種）、丸型（1機種）ともに表面温度は平均38度と、やけどや火事の心配がなく、換気や加湿も不要。消費電力は1000Wから250Wまでの4段切り替えなど、機種によってさまざまなタイプが用意されており、使用環境で選べる。電気代は最大でも1時間約21円（1000W使用時）と経済的。輻射熱による暖房なので、人体や壁、床などの物体を内部から均一に温め、温度差が生じないのが特長だ。

宮下社長は「今後は、バリアフリーを考慮した住宅用のビルトイン暖房や、海外へ向けた販路開拓も目指したい」と抱負を語っている。商品などの問い合わせは同社（☎0274・24・0117）へ。